

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和4年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2022-3	統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発	大阪大学 准教授 貝戸 清之	B
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>応募者等が開発したアセットマネジメントを高度化させ、アセットマネジメントと 1) 劣化属性情報、2) EBPM、3) リスクマネジメントとの融合により、それぞれバックキャスト型道路政策を支援・深化させるための方法論を開発する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>各研究項目について進捗は確認できるものの、最終成果であるマニュアル案の作成を念頭に、研究項目の洗い出しや、具体の適用事例の明確化が望まれる。よって、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;指摘事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・劣化特性（例えば速度）に対応して、補修などのデータ欠損があった場合に生じるモードの違いを解析し、これをデータ欠損の検出に利用するとしたら、そのモード分析の研究内容が重要になると考える。また、再劣化の特性に影響する補修方法や既に劣化している部位の影響（例えば塩害であれば浸透塩分の逆流など）で劣化が促進される様な現象分析についても研究を行い、パターン抽出することが期待される。</li><li>・劣化予測が実際の現象と概ね整合するかどうかの検証が望まれる。</li><li>・構造物群を対象にしたアセットマネジメントとしての実装のためのマニュアルの内容を早期に定めて、マニュアルが実用できるかどうかを判断しながら開発を進めていただきたい。</li><li>・最終成果であるマニュアルの作成から逆算し、具体的な研究内容・研究計画の洗い出しが必要。</li></ul>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第47回新道路技術会議において審議したものである。